





觀鶯百譚卷之五

第九十鐘錄入抱犢山學書

魏鐘錄少かりし時劉勝丹從之抱犢山

入之三年書法まよひなり能書少なりて後

太祖邯鄲漢書誕し用筆如法は編みなり

鐘錄書誕し君の師蔡伯喈也故書法を

就中傳へし不即し其法を傳へざりしを

鐘錄ちよみみく自胸を擡て血吐く

まじに死しにありて太祖が書丹とて

ゆきとありしをく治りしなり



書法... 筆法... 墨法... 筆法乃
法天下に如くありぬ。此の筆法は乃
精思を以てはるるを事なり。外に被り
に指を以て字の形を裏に表に透す。
又剛柔の二筆法を思惟して、終に筆
事と云ふ。毎に筆法を以て、法を以て
し。かゝる筆法。かゝる筆法。古く身
に善書少くありぬ。王羲之の法に、
只此人のまじり。

朱晦菴。書を評して。あまりに。物以て
る。害を甚し。朋友に信をうしむ。以て
慕ひ極。知少を忘る。其の如く。毎
日。此の如く。是れと云ふ。謝する。ひま
事。いかに。玩物喪志。是なり。
知法あり。技藝。此の如く。是れと云ふ。如
古。器古。書画を。よみ。是れと云ふ。如
なり。然し。いかに。なり。
唐の如く。お。い。物。を。狗。奔。中。古。今。遊。
唐の如く。宗。乃。其。事。叙。と。明。後。入。了。是。終。

事。王情の秘授せし。鍾繇の書る。尚書宣示
帖を情死して。其母命して。墓に入ら。事又
次。来記せる。華誕。其師に傳れ秘を。己の墓
入ら。事又。同一。秘有り。又元好問。張伯倫
が墓を。掘ら。其を。書二冊を。一冊を取ら
か。りて。及。又一冊を。とらんと。尋り。其を。見せ
ゆ。こ。び。甚。是。其。事。と。云。伯。倫。其。書
の。木。こ。も。り。か。り。と。云。

知信云。二王鍾繇と張芝の初として。鍾繇と張芝の
字をたものなり。か。り。と。云。其。筆。法。傳

も。も。此。と。か。り。元。明。の。時。み。出。り。て。宗。克
の。字。仲。温。と。く。録。字。の。書。又。章。草。の。後
たる。と。も。興。り。て。以。に。記。す。あり。十一波君愚
章草と並見
趙子昂。曾て。草。書。の。叙。小。跋。を。十三。度
中。で。作。り。て。書。り。世。に。名。を。傳。へ。て。常。に
以。宋。克。の。名。を。録。字。章。草。の。中。に。記。す。と。云。て
書。る。事。あり。其。奇。妙。た。と。い。ふ。所。あり。又
於。此。を。錢。博。の。書。と。く。人。の。所。不。知。其
真。跡。を。た。く。徽。仲。の。叙。書。と。く。藏。し。て
鍾。繇。の。筆。如。孫。と。い。ふ。事。あり。錢。博。の。後。傳。

元弟ハ明如結書なり。
 此書ハ啓二十年明乃周益主如刻也。
 蘭序大快也。超公如跋十八。益主
 横南道人と稱し。遜學書院と記す。
 如中如王若なり。
超公如法跋よ。筆法の甚
 ちの。事むおんを看
 ぶ。しきもの也。

第九十一 蕪米鶴林寺伽藍神

潤州北鶴林寺に米元章。蕪米收りて以て
 伽藍神に祭りて之を祀りて事すと云。

知性云。鶴林寺は開山僧。宋約の筆法
 余よりいさる。但如法は因縁を事と
 黄原に伽藍神を。蘭序を祭り。因縁
 あつと云。蘭序を今も伏魔大帝神
 と。威靈甚厳なり。府前に百籤あり。
 知性書寫して藏む。

第九十二 王弼州任瑯琊後島
 明如付王元美の傳也。大牙に。不月入也。

事。おぼろしきも、道も別して、是とざる家
らに事せり。七筆法、事。一、知人
あり。知法真跡と墨本を。見れば、
玉州も、おぼろしき。古くは書死を、撰られ
た。を、見るに、又四部、行、中、の、書、法、
部、法、を、見るに、他人、一、生、其、精、力、と、
い、ら、も、中、く、乃、び、さ、る、事、の、を、なり。元
美、さ、る、事、。吾、眼、中、有、筆、故、不、能、任
職、書、みづく、書、成、の、眼、の、腕、中、を、鬼、か、た、
書、記、に、解、し、お、た、り、書、を、ら、

明、の、名、儒、の、海、也、云、牟、州、先、生、王、元、美、親、其、
所、為、右、軍、真、跡、之、帖、貴、舍、量、英、語、作、
入、其、意、殺、然、以、御、御、兼、之、後、昆、自、任、と、
知、快、按、其、之、帖、ハ、千、區、帖、大、熱、帖、ナ、リ、文、載、
周、天、球、も、跋、を、書、し、今、一、帖、々、董、其、昌、
玉、烟、堂、帖、の、中、に、臨、官、奴、帖、あり、王、
元、美、の、持、如、帖、と、て、臨、と、し、ま、如、は、新、
之、の、書、法、と、も、三、帖、を、し、求、め、ら、れ、
る、の、書、法、と、この、なる、事、と、又、ら、一、

第九十三 古今篆書正統流派

和朝の篆法は、篆書を沙汰せざる者あり
去るより今に至るまで、古能書に一人も、篆法に
善書は稱せし。弘法大師は、奇篆の師と
と云ふも、傳書やらん。今に、益田の地
の碑と曰ふ。とて、前より、その、
堂の篆書、程良と云ふ。此、世の學
者、即、章を、篆刻と云ふ事、この、心、人、を、篆
法を、う、い、未、也、人、の、心、は、是、も、授、代、

唐人黃道遠より、若、篆を、とく、と、長、法、の
人、其、篆、子、あり、て、學、び、り、人、あり、て、世、に、如、む
人、と、出、來、り、り、り、。筆、法、を、家、を、立、り、り、
ゆ、え、却、て、か、り、た、り、り、と、云、く、。八、分、篆、書、の、
習、ひ、を、傳、へ、り、。細、工、事、也、。た、と、く、を、付、く、と
能、後、を、法、知、り、め、い、と、ま、さ、く、と、云、人
を、知、慎、頭、年、を、し、筆、法、師、と、云、人、を、
皆、同、と、ま、ま、い、也、。あ、り、り、り、り、り、り、り、
か、く、と、教、へ、傳、へ、り、。や、ら、ん、と、な、る、事、を、思、ふ、計、
あり、。篆、文、を、文、字、に、祖、と、り、を、な、し、と、云、

唐李斯之其集義を極むる事其一代の
ちりし書にして其を不ある之の象筆
自在なり其種玉よりその漢朝を以て
李斯之符籙張芝之草書湯沐之氣柳
歐虞之之しと。知信あり。今之に唐土
象書如原流をあらまし記して。侯爵は
美工を救ひしと歎し併知信し私書ありあ
らば。
秦李斯去皮肉而筋骨獨存此書之最難
者也。漢蔡中郎。毫作大篆則稍無肉矣。

唐李陽冰時作柳葉篆珠無古意亦此
小篆然不見勁挺固非之意去李斯也矣
南唐徐鼎臣始而作玉筍骨肉自圓の
謂盡善。元吾子行。周伯琦。宗玉。跋似年少
骨。明朱孟辨過手吳周二家。明憲孝
朝李西涯香白篆。小篆。徐子仁。韓仙。宗玉。跋
八妙品。其あらまし。其外象書はよく
ととふ人。その中。之とも。皆大母。この。精力
を。用。統。統。を。ふ。て。字。の。事。を。た。ら。し。法。法。を。
一。智。と。か。い。い。信。令。を。あ。ゆ。り。事。の。ま。し。

恒厚く。郡にむすむ事。今日大平日久く。
文物より人あり。昔よりけり。事。開。今。時
より。恒。厚。智。み。恒。見。あ。ま。ま。い。早。
み。安。む。む。事。あ。む。む。事。あ。む。む。
志。慎。李。斯。燔。山。の。銘。を。知。り。て。陽。冰。
徐。背。仙。才。西。漢。一。生。外。家。書。を。費。洵。也。
花。正。六。十。年。才。旦。夕。に。あ。め。り。け。し。堂。
之。つ。て。も。亦。才。あり。て。人。み。亦。と。に。を。原。
徐。霖。字。子。仁。号。真。仙。金陵。人。日。本。朝。鮮。使。
臣。白。毛。書。付。製。為。珍。と。云。こ。か。や。う。ら。ま。む。

和物。亦。其。の。人。ま。か。し。し。に。を。也。知。快
行。書。昔。書。其。其。二。卷。ひ。ん。が。如。妙
と。と。人。の。家。書。を。尤。物。後。う。之。
浪谷祥雲者。徐霖。大幅行書。右。左。物也。

第九十四 吳興金剛經仲模傳
趙魏公。子昂。幻。住。菴。於。僧。乃。先。に。金。剛
經。を。の。り。て。い。ま。ご。事。を。原。て。菴。に。在。り。
子。翽。雅。仲。模。是。を。書。繼。り。て。其。懸。後。
所。當。い。ま。の。辨。じ。は。け。り。け。り。家。傳。也。

支。法。及。び。の。如。く。を。な。す。い。は。り。

子昂。佛。性。を。も。一。波。道。初。心。維。を。皆。有。
み。り。り。

第九十五 把筆撥鋒不頂苦際

王獻之幼少時。書。を。習。し。義。之。後。り。
筆。法。智。を。も。不。事。を。は。り。り。然。り。
子。必。若。書。し。る。ん。と。悦。び。き。り。と。云。は。り。
傳。層。く。後。世。を。も。は。り。り。と。此。あ。や。り。り。伝。

以て執筆法。の。実指。の。二字。を。若。際。と。し。り。
故に。和。然。若。筆。法。を。祝。し。筆。法。鬼。も。り。也。
墨。を。餘。鬼。に。も。せ。り。敬。し。傳。り。り。事。久。し。
唐。王。也。此。あ。や。り。り。と。傳。り。り。事。久。し。也。
手。元。美。氣。を。ら。り。と。云。く。我。張。教。法。に。守。
楷。書。把。筆。妙。在。虛。掌。運。腕。不。宜。把。筆。若。
緊。然。大。令。我。之。小。時。作。書。右。手。智。筆。法。有。
と。い。ふ。事。也。同。く。敬。意。答。へ。云。是。を。有。
力。と。い。ふ。事。也。若。際。も。あ。り。若。際。も。あ。
た。り。ま。じ。り。也。尤。大。小。兼。り。り。教。法。は。物。

公権は自然と力ありて。結書なり。二王を力に
化せしものや。さういふて。親柳を學べども。若
紫をまぬらひぬ。二王以學べども。虚知の事ハ
も。心も。好かしく。答へり。是名論なりと云。
又山岩云。妙五字。中指と。先若紫の如龍。
若紫の筆跡。把し。第四指。名指也。又名指
運轉せ。試み把し。入し。む。さ。り。の。め。知。
事。の。極。法。を。く。味。む。自。然。と。言。ふ。
二王以。其。法。を。宗。と。し。人。を。結。書。と。し。此。
の。道。も。さ。ふ。人。を。若。紫。を。事。と。次。た。ん。確。

と。西。の。く。築。成。ふ。り。ん。と。り。と。一。王。
力。を。盡。て。も。む。り。べ。う。が。和。國。の。武。園。め。て。武。
藝。を。と。り。し。ら。り。い。つ。と。の。武。藝。の。若。紫。の。力。
は。入。り。け。り。て。何。處。と。い。ふ。樹。や。あ。ふ。法。の。
細。く。も。は。り。み。か。か。た。入。り。上。手。や。早。に。
な。り。事。と。あ。る。に。若。紫。法。が。り。若。紫。を。教。へ。
お。よ。い。え。い。お。よ。い。え。い。事。が。あ。る。と。今。世。
上。に。は。解。釋。の。ゆ。め。を。い。く。と。是。は。
語。の。もの。なり。

聖道生。南島外史と号す。筆論。自著の。もの。

石がぬる云。妙在。第由指は力。忘苦。紫しる。
是上。於山。谷の。云。紫に。忘苦。紫しる。三字
を如く。人。示。と。如。なり。地。況。わ。り。
苦。紫。如。弊。や。り。也。近。世。を。唐。主。に
苦。紫。か。一。文。祝。董。皆。回。也。

第九十六 墨池 鴛池 釣臺 丹井

墨池 於事。一人。命。所。跡。過。庭。於。書。滂。り。
張。精。熟。池。水。盡。里。一。西。北。之。張。伯。英。名。芝

於事。於。王。右。軍。陳。州。内。史。たり。今。云。
て。池。水。中。に。墨。跡。あり。し。り。と。云。り。之。り。
又。各。稱。し。り。不。り。開。利。寺。に。名。を。洗。心
池。あり。り。に。就。於。池。あり。り。池。水。今。思
し。と。云。又。今。名。を。山。陰。縣。の。戴。山。墨。池
あり。り。稱。池。主。今。と。戒。殊。寺。し。り。寺。之
方。輿。勝。覽。に。常。徳。法。の。龍。湯。州。淨。徳。寺。
張。旭。子。畫。墨。池。あり。り。と。云。張。長。生。の。り。
筆。迹。を。臨。池。と。稱。す。り。大。如。名。事。り。り。也。
志。り。り。を。在。る。を。引。司。也。一。法。芝。如。事。

此初よりなる。如性水なり。唐土人其
 筆硯を洗相事。甚志なり。其事筆
 書めり。硯水極も水を貯る處
 深く大なり。又筆洗も大なり。有り。書
 硯等も水に添んて洗ぬ事。書け
 事。筆硯も水に添んて洗ぬ事。書け
 席り上めも筆硯を洗ぬ事。書け
 あり。水も水に添んて洗ぬ事。書け
 事。筆硯も水に添んて洗ぬ事。書け
 事。筆硯も水に添んて洗ぬ事。書け

ちふ事ありし。如性水なり。
 因也。上代其硯を洗ぬ事。書け
 して。如性水なり。如性水なり。
 或云。墨池。硯池。又高洪水丹井。
 硯子。復如硯水。硯水。硯水。硯水。
 和國も。硯水。硯水。硯水。硯水。
 弘法大師。業平。小所。硯水。硯水。
 かの。硯水。硯水。硯水。硯水。
 かく。硯水。硯水。硯水。硯水。
 今の。硯水。硯水。硯水。硯水。

少於こまると。

第九十七 則天孫休和朝俗字

則天武氏 孫休^{シツレシ}と云^ク。孫休^{シツ}景帝^{キョウテイ}也。

寧^{ネイ}灣^{ワン} 商^{シヤウ}迄^ト 冥^{メイ}龍^{リウ} 舜^{シユン}音^{オン}曠^{クワン}又^{マタ}賢^{ケン} 鉅^{キョ} 莽^{マウ}

昂^{オウ} 舉^{キョ} 寇^ク 褒^{ホウ} 焚^{ハン} 權^{ケン} 太^{タイ} 孫^{ソン} 休^{シュ} 休^{シュ} 休^{シュ} 休^{シュ}

豐^{ヘイ} 照^{シヨウ} 死^シ 天^{テン} 塗^ト 地^チ 日^{ニチ} 田^{テン} 月^{ゲツ} 星^{セイ}

太^{タイ} 武^ブ 氏^シ 作^{サク} 事^シ 又^{マタ} 或^{オク} 書^{ショ} 事^シ 廩^{リン} 載^{サイ}

園^{エン} 國^ク 圃^ブ 初^{シュ} 登^{トウ} 登^{トウ} 證^{テイ} 蠶^{サン} 授^{ジュ} 鑿^{タク} 聖^{セイ} 匪^{ハイ} 生^{セイ}

五十三

右武氏作事。又或書事。登證 武氏作

塗地患臣 二字并。我國策也。用之

字^ジ 々^ク 々^ク 云^ク。 知^チ 信^{シン} 按^{アン} 塗^ト 至^シ 聖^{セイ}

雪^{セツ} 田^{テン} 田^{テン} 象^{シヤウ} 字^ジ 亦^{オク} 見^{ケン} 於^オ 此^コ 也^{ナリ}

象書此中入事^シ 事^シ 事^シ 事^シ 事^シ 事^シ

又元^{ゲン} 如^ニ 對^{テイ} 但^タ 事^シ 字^ジ 名^{メイ} 下^カ に 載^{サイ} せん

唐^{テイ} 土^ト 以^ニ 謀^{ボウ} 詐^ソ 券^{ケン} 約^{ヤク} 也^{ナリ} 事^シ 未^ミ 信^{シン} の 字^ジ を

用^{ヨウ} 也^{ナリ} 桂^{ケイ} 林^{リン} 如^ニ 諸^{シヨ} 邑^イ 也^{ナリ} 皆^{カク} 事^シ 事^シ 事^シ 事^シ

出^{シュツ} 也^{ナリ} 震^{セン} 音^{オン} 雉^シ 不^フ 長^{チャウ} 也^{ナリ} 閏^{ニツ} 音^{オン} 穩^{ウン} 事^シ 事^シ 事^シ

中^{チュウ} 也^{ナリ} 天^{テン} 音^{オン} 動^{ドウ} 人^{ジン} 瘦^{シュウ} 弱^{ジュク} 也^{ナリ} 至^シ 音^{オン} 終^{チュウ} 人^{ジン} 亡^{バウ} 絶^{ケツ} 也^{ナリ}

存 音臘 不^レ能^レ舉^レ是^也也。 妖 音大 女大也。 及^レ婿^也
也。 臣 音劬 山石之^レ巖^也窟^也也。 網 音隈 門^也
横^也也。 かやうに^レあ^レも^レ。 和^レの^レい^レあ^レる^也。
又^レ隋^ノノ^ノ時^ノに^レ俗^ノ字。 息 憂 衰 變 甬 甬
甦 蘇 先 老 渠 歸 蟹 蠶 堯 醜 此
為^レ字^ノ如^レ中^ノ女。 甦^ノノ^ノ字^ノを^レ路^ノも^レ直^ノも^レ凡^ノも^レ
方^ノあり。 和^レ信。 東^ノ部^ノに^レ市^ノ中^ノと^レ。 葉^ノ舖^ノの^レ牌^也
を^レん^レり^に。 蘇^ノ甦^ノ九^ノと^レあ^レり^に。 同^ノ字^ノを^レか^レき^レり^に
書^レり^に書^レり^にあ^レや^レり^に。 尚^ノ多^ノれ^レ。 若^レて^レ
そ^レの^レ丸^ノと^レし^レも^レ葉^ノなり^にと^レり。 甦^ノを^レ生^レと^レる^也

て^レ書^レけ^レら^レり^に。
和^レの^レ俗^ノ字。 許^ノ多^ノあり^に。 四^ノ十^ノ字^ノを^レん^レり^に有^レと
ふ。 神 過^レり^に 迷^レり^に。 嘘 嘘
御 ち^レま^レく 風 風 抱 抱
社 社 傍 傍 此 此 務 務
連^ノ歌^ノの^レ情^ノ律^ノに^レ。 他^ノも^レな^レり^にあり^に。
新^ノ字^ノの^レ文^ノ字^ノを^レん^レり^に。 御 御 下^ノ六^ノ字^ノ
そ^レの^レり^に。 依^レり^に。 依^レり^に。
又^レ依^レり^に。 依^レり^に。 依^レり^に。 依^レり^に。
依^レり^に。 依^レり^に。 依^レり^に。 依^レり^に。

古風未記也。殘本を以て。第五十三。鷹河
安弁郡の産物の中。蘭 野鶴
菘 鮪 魚 鱈 鵜 地名の中。
東川込 かやういそ。信濃の産物あり。た
なり。込の字。武蔵の産物あり。た
信濃の産物あり。
又多。鐵の信子。海海あり。廣生
信子あり。

第九十八 蔡忠惠公萬安橋銘

萬安橋を。泉州あり。洛陽橋と云。宋の蔡
忠惠公。名。襄。字。君謨。造り給へり。其。銘。云。
君謨自記を以て。自筆に書。石に刻。
橋の前後。小立あり。其石。卒。和。好。書。
了。其。信。其。屏。也。を。以。て。和。好。書。尤。
大字。如。佛。品。年。法。物。あり。其。文。曰。
泉州萬安渡。石橋。始造於皇祐四年十二
月辛未。未訖。巧案。址於淵。醜。水。為。四十七
道。梁。空。以。行。其。長。三千六百尺。廣。丈。有。

五尺翼以扶欄。如其長之數。而兩之。縻
金錢一千四百萬。諸施者。渡貫支海。去
舟而徒。易危以安。民莫不利。職其事者。
盧錫。王寔。許忠。浮圖義波。宗善等。十有五
人。既成。大守蒲陽蔡襄。為之合樂。燕飲。而
樂之。明年秋。蒙召還京。道繇是出。因記所
作。勒於岸左。と云。字。大。方。一。尺。二。石。に。勒
して。今。は。公。乃。初。め。立。て。る。公。の。功。百。世。に。傳。ふ。
大。乃。事。の。公。僅。め。一。百。五。十。三。字。と。記。
は。ぬ。火。を。控。せ。り。事。碑。に。教。へ。ん。と。云。

此二碑石。つづく。倭人。事。して。舟。の。せ。て。去。り。ぬ。は
ど。怪。し。は。水。の。石。に。光。あ。り。ぬ。又。一。碑。は。後
の。一。石。を。石。り。前。の。一。石。に。つ。ら。り。ぬ。人。は
より。て。後。人。事。す。本。を。以。て。又。墓。一。倚。り。ぬ。
有。石。の。あ。り。後。石。を。禁。固。か。り。碑。と。し。は
人。も。も。其。丁。に。お。り。江。乃。復。よ。ま。さ。う。い。ふ。
ま。し。に。神。物。と。い。ふ。事。

又。世。傳。り。事。に。つ。ま。り。ぬ。ま。し。に。神。異。と。い
お。す。の。事。初。め。蔡。公。好。ま。り。ぬ。後。前。代。を。も
此。海。り。ぬ。棺。あ。り。ぬ。大。乃。事。を。か。ん。と。云。

しつゝいづも。清勢^{キヨセ}をばけく。址^シを案^{アヒ}とんま
やうかりしに。蔡公^{サイコウ}自文^{ジブン}をばけりて。江村^{エムラ}
檄文^{ゲクブン}をうりて。其使^シ。姓名^{セイメイ}を。形^{カタ}して。
家^{イヘ}より。一族^{イツク}の。まごひて。舟^{フネ}を。江
よみうのび。檄文^{ゲクブン}を。抱^{イダク}て。水^{ミヅ}を。入^{イレ}り。おれ
経^{ツル}て。海^{ウミ}を。出^デり。懐^{イハ}中^{チュウ}に。一^{イツ}管^{カン}を。一^{イツ}口^{コウ}を。醋^{セツ}の
字^ジを。はり。公^{コウ}解^ゲと。も。是^{コノ}橋^{ハシ}を。就^{ツク}り。也
言^{コト}なり。廿^ニ日^{ニチ}酉^ユの時^{トキ}に。半^{ナハ}初^{ハツ}光^{クワウ}と。し。
す。つら。おれ。い。ま。ま。の。九^ク。金^{キン}沙^{シャ}。一^{イツ}千^{セン}百^{ハク}の
費^ヒ。民^{ミン}の。力^{リキ}を。守^{モリ}り。か。め。い。う。と。は。は。煩^{ワン}

す。時^{トキ}流^{リウ}り^リの上^ノに。新^{シン}船^{セン}を。か。う。て。一^{イツ}人^{ニン}を。舟^{フネ}
亦^{モト}く。出^デり。美^ミ人^{ニン}の。や。う。知^チに。金^{キン}沙^{シャ}を
擲^チく。南^{ナン}り。と。ん。に。い。く。其^{コノ}人^{ニン}。あ。ま。さ。い。
徳^{トク}と。海^{ウミ}の。遊^{ユウ}楽^{ラク}。試^シみ。擲^チけ。と。も。あ。ま。
さ。う。い。は。せ。に。人^{ニン}。も。是^{コノ}に。具^クと。て。金^{キン}沙^{シャ}を。か
が。ら。う。り。や。う。初^{ハツ}月^{ゲツ}の。日^{ニチ}に。金^{キン}沙^{シャ}の。い。く
に。舟^{フネ}を。う。り。人^{ニン}。は。金^{キン}沙^{シャ}を。岸^キを。あ。つ。と。い。へ
り。と。い。は。せ。と。せ。に。舟^{フネ}。か。う。て。は。金^{キン}沙^{シャ}を。
も。ろ。み。其^{コノ}費^ヒの。お。よ。け。ひ。や。う。だ。と。海^{ウミ}
神^{カミ}の。感^{カン}。あ。う。り。と。衆^{シュウ}人^{ニン}。い。ま。ま。を。い。ま。ま。

さばとて。サ一日酉に時なり。事状をこして
全く成就。方代の大功を遂げやう。かの
美人冬に非の使者とも。又親言大まれ。休
御介りとも云。又この使者は祖也。指は此考
は有り。其非の名。お法忌部なり。王遣
叢云く。あこりに。事非非妙に。かんと
云。侍り事。あこりとも。蔡云。お徳も。俗とも。有
世の人。丹り。分彼れ。蔡云。のづめて。高貴の大
利を。侍り事。あこりとも。に。非威を。あ
てと。あまり。侍り事。あこりとも。

和物めも。かやうに。事。あ。非。佛。お。重。異。を。こ。ふ
事。あ。り。保。非。助。よ。う。も。代。の。大。功。は
之。切。り。事。あ。り。
又萬安橋の三太字。海よめを。徑。三人許なり。
年尾存筋のはあり。関人劉洋。書なり。蔡云
自かどして。劉洋。か。う。せ。ら。ん。と。云。
お。非。の。り。倭。人。に。載。せ。ま。け。二。石。の。四。
は。お。沈。え。て。お。出。す。れ。も。下。り。お。沈。ま。
に。あ。り。一。は。り。と。和。物。を。齎。り。て。
西園の海畔。か。う。も。り。と。せん。お。事。の。え

沙時此地中より出て南を大かまらるるに
しきし。こは山陰人か見ゆ事。さ
かして。是より十里をり。奥州の守を
あやふ。名は傷。福一碑。齊をたに。
風雨をぬき。旅人問ふ。れは。序とひ
ら。と。旅客の定。き。き。あ。ち。通。り。路。
ひ。つ。ん。と。り。い。な。わ。ぬ。真。ま。や。や。さ。た。み。
そ。石。林。前。の。つ。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。
石。や。い。ん。や。也。ゆ。石。の。い。ん。あ。り。あ。り。
い。ん。石。林。前。の。つ。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。
か。

五三

一なり。目も。か。ゆ。又。微。官。は。身。あ。り。日
あ。り。事。も。な。り。か。い。く。さ。な。ぬ。さ。り。
登。り。田。舎。人。を。さ。り。好。事。は。は。の。の。
か。

第九十九 和朝善書尊圓硯筵

和朝の善書傳を。州。と。ん。り。事。久。く。
い。ん。も。学。才。も。さ。く。隱。藏。明。か。り。あ。り。ん。
書籍。傳。り。に。い。ん。ん。真。跡。を。求。む。

事。あて難きものなむ。さうしてやをせぬ。由は
てと。如き堂。書画ともに。筆才ありて。終品
たり。堂上地下。散林信林。二人あり。一
か。紅く。中。筆。好。才。を。と。り。て。あ。ま。り。な。む。あ。く。
ん。ご。り。と。し。や。み。ぬ。

先の相創れ家や。あはに。今。一。さ。り。に。其。先
人。覚。悟。が。事。を。問。き。と。い。は。り。た。り。後。を。由。清
願。應。公。に。侍。り。て。筆。法。を。そ。ま。い。ま。り
せ。り。あ。り。う。る。事。あ。ら。後。に。清。書。當。と。蒙
り。せ。り。し。り。の。又。悦。が。亦。あ。る。もの。告。ぐ。云。

尊因親王は。伊。波。延。今。に。付。う。る。如。氣。安。の
具。入。り。もの。に。あ。り。者。し。き。を。せ。り。又。悦
り。て。其。由。東。の。身。に。實。事。の。終。む。
買。求。り。く。秘。法。一。を。を。竹。人。の。た。り。ん。
仙。院。後。水。尾。帝。さ。う。知。り。て。上。を。の。願。い。ぬ。
か。り。て。致。し。奉。り。ぬ。中。信。信。の。さ。う。か。
區。北。美。子。あ。り。や。し。の。事。也。え。
玉。尊。の。ま。り。の。を。家。に。か。り。を。あ。ら。ぬ。
中。と。考。へ。る。古。式。を。あ。ら。り。し。し。
私。し。る。を。黙。し。け。り。ぬ。母。の。覚。悟。が。事。

第一百 衡山徳行世系壽量

文衡山先生徳り其言多事。洪書の如し
と八。筆法乃天下に妙なる事。有る百
事。たちの事。皆人知るる事。其
弱事より。是を善の事。其
先其世系法あり。載す。萬姓統譜
母云。宋の名臣。文と山天祥乃弟。文璧の
後也。初名。壁。字。八。微明。後字。八。行。ハ
更。ハ。字。八。微仲。といふ。又。王元美
ハ。史料。ハ。名。と。字。乃。事。ハ。右。と。同。

八と。天祥の弟。文璧の後と。ハ。ハ。
其。母。ハ。王元美の史料。ハ。傳。ハ。
子。彭。及。孫。元。發。と。共。ハ。其。遺。事。を。撰。
次。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
微明の父。文林。其祖。先乃。名。を。ハ。ハ。
ハ。ハ。子。に。命。を。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
統譜。ハ。祖父。名。ハ。洪。字。ハ。公。先。父。名。ハ。林。
字。ハ。宗。儒。叔。父。名。ハ。森。と。有。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
微明。嘉靖。乃。初。蒼。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

詔あり。告歸し後。年九十八。其終。
 文學博り。為時所宗。子。刻。字。壽承。号。三
 嘉。字。休承。号。茂苑。又。文水。共。母。文。名。あり。文
 三。瑤。家。法。母。達。也。何。曾。漁。名。を。得。ず。
 又何。良。俊。の。記。也。微。明。弘。治。己。未。三。月。卒。
 とも。良。俊。名。微。明。の。友。也。其。む。つ。も。し。
 己。未。の。前。年。九。十。の。賀。あり。事。を。記。せ。り。
 去。り。し。年。九。十。一。の。即。ち。卒。せ。り。又。統。譜。に。
 尺。寸。不。の。本。母。一。を。八。と。何。や。ま。り。た。ら。ん。
 形。の。考。

史料に。先生の侍文。浦田集ありと云也。知慎いまだらる事伝はらず。

清朝の人。其書。宋。の。微。の。孫。文。啟。美。
 と。い。ふ。人。の。沈。湍。を。惜。む。事。も。文。學。等。
 途。も。た。待。張。の。孫。と。ん。秘。の。事。あり。
 云。其。子。嘉。の。子。の。事。の。事。あり。
 衡山先生。文章。德行。書。畫。壽。數。共。
 明朝三百年。其。間。母。と。り。し。女。子。共。
 家。聲。を。墜。さ。し。も。其。後。慕。蔭。を。
 る。也。故。母。百。讀。の。筆。を。と。り。し。の。也。
 享保第十一。禊。歲。次。丙。午。冬。十。一。月。十。六。日。書。
 於。奇。勝。堂。南。軒。

廣澤勝知慎公謹父

其情十之九也。此書亦亦。其
藩。其情十之九也。此書亦亦。
和文にらるる。其情十之九也。
有る。其情十之九也。此書亦亦。
何人。其情十之九也。此書亦亦。

其情十之九也。此書亦亦。其
藩。其情十之九也。此書亦亦。
和文にらるる。其情十之九也。
有る。其情十之九也。此書亦亦。
何人。其情十之九也。此書亦亦。

教命よき... 老交一持... 強... 世に... 又... 切... 字係十九...
 慶長二十年七月廿日
 川村源左衛門持行
 江戸通油町

京保二十年七月廿日
 江戸通油町
 川村源左衛門持行
 書肆

